

第126回 経営協議会（定例）議事要旨

日 時 令和3年4月22日（木）13：27～15：05
場 所 事務局特別会議室（4階）

議題1．国立大学法人鹿児島大学におけるライセンス等の対価として取得する株式等取扱規則の制定について（資料1）

報告事項1．令和3年度成果を中心とする実績状況に基づく配分の詳細について（資料2）

報告事項2．国家試験の合格状況について（資料3）

報告事項3．令和3年度入試状況（学部）について（資料4）

報告事項4．令和3年度の経営協議会日程について（資料5）

報告事項5．本学教育研究評議会での審議事項等について（資料6）

報告事項6．記者発表事項等について（資料7）

協議事項1．鹿児島大学病院について（資料8）

（1）病院経営の状況について

（2）病院再開発の現状等について

（3）新型コロナウイルスの対応状況等について

その他

[出席委員] 14名

佐野学長

（理事）馬場、越塩、岩井、武隈

（学内委員）坂本、田頭

（学外有識者）上村、塩田、坪内、津曲、中村、福元、山野

[欠席委員] 1名

（理事）

（学外有識者）池田

[オブザーバー]

（理事）石窪、萩元

（監事）日高、松枝

（副学長）森、渡邊

（学部長等）松田、有倉、岡村、橋口、西村、木下、橋本、佐久間、三角、山口、井戸、中原、寺田

（副病院長）杉浦、宇都（全員協議事項1のみ）

冒頭、学長から、新体制による初めての経営協議会に際して挨拶があった後、資料（名簿）に基づき委員等の紹介があった。

引き続き、学長から、経営協議会規則及び経営管理運営体制の資料に基づき、本会議の位置付け等について、また、国立大学法人ガバナンス・コード記載の、経営協議会等の責務と体制整備、本会議学外委員の選考方針及び本学ホームページの経営協議会に関する掲載事項等説明があった。

議題 1. 国立大学法人鹿児島大学におけるライセンス等の対価として取得する株式等取扱規則の制定について（資料 1）

学長から、国立大学法人鹿児島大学におけるライセンス等の対価として取得する株式等取扱規則の制定について諮られ、岩井理事及び馬場理事から、本学が保有する研究成果に係る知的財産権のライセンス等の対価を現金に代えて株式等で取得する場合の取扱いに関する規則を制定すること等資料に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

報告事項 1. 令和 3 年度成果を中心とする実績状況に基づく配分の詳細について（資料 2）

事務局長から、令和 3 年度成果を中心とする実績状況に基づく配分の詳細データが文部科学省から提供され、本学の状況について、成果指標ごとに学系及び学部の詳細データを取りまとめたこと等資料に基づき説明があった。

なお、学外委員から、若手研究者比率や常勤教員当たり研究業績数等が低く、良い研究が行われないと、良い人材が採用できず、良い人材が採用できないと良い研究はできないので、どのような対応を考えているか発言があり、学長及び馬場理事から、本学の現在の状況及び対応予定等回答があった。

報告事項 2. 国家試験の合格状況について（資料 3）

国家試験の合格状況について、資料による報告があった。

報告事項 3. 令和 3 年度入試状況（学部）について（資料 4）

令和 3 年度入試状況（学部）について、資料による報告があった。

報告事項 4. 令和 3 年度の経営協議会日程について（資料 5）

令和 3 年度の経営協議会日程について、資料による報告があった。

報告事項 5. 本学教育研究評議会での審議事項等について（資料 6）

本学での動向等を把握していただくために教育研究評議会での審議事項等を添付している旨説明があった。

報告事項 6. 記者発表事項等について（資料 7）

本学の最近の主な記者発表事項等の記事を添付している旨の説明があった。

協議事項 1. 鹿児島大学病院について（資料 8）

- (1) 病院経営の状況について
- (2) 病院再開発の現状等について
- (3) 新型コロナウイルスの対応状況等について

学長から、今回の協議事項は、鹿児島大学病院について提案した旨説明があり、引き続き、坂本病院長から、病院経営の状況、病院開発の現状等及び新型コロナウイルスの対応状況等について、資料に基づき説明があった。

説明の後、各委員から次のような意見等があった。

- ① 病院は、患者の立場からの考え方が必要であり、病院スタッフが丁寧なところに患者は集まると思われ、大学病院がそのように取り組んでいることは、今後、良い結果に繋がっていくのではないかと。また、退院日を早くするのは、患者にとってもありがたいので、今後更に在院日数を短くすることが必要だと思う。なお、借入金が多すぎて償還計画は難しいのでは

ないか。

- ② 新型コロナウイルスの関係で、大変厳しい状況であり欠損等あると思うが、それに対する国の助成等満足できるものであったか。
- ③ 大学病院は、重症患者の積極的な受け入れ、その他に様々なワクチンの関係でも相談対応等していただき、県民が安心して暮らしていくために大変期待している。また、実質的・物理的な補助ができるよう、今後も国の方に要請していきたい。なお、現在、変異種の関係で重症患者が増加しそうであり、県内全体で38床、大学病院でも15床確保しているが、この病床を越える時に、大学病院が地域医療の最後の砦としてどこまで頑張れるのかと思っている。
- ④ 現在、鹿児島県の医療機関は非常に良い連携が取れているが、病床を越えた患者が発生した際の対応は十分ではないと思う。その際に大学病院や市立病院が、更に機能を発揮すべく、他の診療を制限してでも、新型コロナウイルスの重傷患者を診られるような体制を、どのように構築するかが課題だと思う。
- ⑤ 経営協議会では、大学病院に限らず、各学部等ごとに、収益をどのように上げていくのか、予算削減すべきものをどのように削減していくのか、研究の部分では、研究業績数をどのように伸ばしていくのか、優秀な研究者をどのように集めていくのか、主にこの2点が、一番の議論の焦点になるべきことではないか。その際に、大学病院も、今後の借入金の返還などを考えると、今の状況で十分でないと思われ、研究業績数も今が満足できる状況ではないと思う。大学病院を持続可能な組織にすべく研究業績数を今後向上するために、どのような改善や努力をしていくべきか、医科と歯科ごとに問題意識を表明していただきたい。
- ⑥ 研究業績数は、病院経営に集中すると、研究を行う教員と診療を行う教員に機能分担が自然にできたりするのか。また、実務が非常に忙しい教員は、研究業績が上げられず、無意識に機能分担をされたりするのか。なお、研究費獲得のためには、申請することや申請数がどのくらいあるのか絶対数が非常に重要であり、多くの教員の中で共同で研究する比率はどの位あるのか。研究費の総額だけが多くても、申請する教員が少ないのであれば改善する必要がある。その辺りの関係性は何かあるのか。

その他

次回（定例）は、令和3年6月24日（木）13時30分からとなった。